

大迫の魅力、再発見！文化講演会

2月21日（土）大迫交流活性化センター多目的ホールにて、中村良幸氏（花巻市総合文化財センター）をお招きして「大迫文化講演会」が開かれました。テーマは『雛物語 in おおはさま』。

雛人形の鑑賞に訪れた沢山の方で賑わう雛まつり展示会場での講演で場内は満杯に！

大迫に数多く残されている雛人形の種類と時代背景、また“東北三大土人形”の一つに数えられる花巻人形のお話や大迫の歴史と産業について、楽しくわかりやすく教えていただきました。『この後に雛人形を鑑賞する上でとても参考になった、お雛様を見て回るのがもっと楽しみになった』と喜びの声が届きました。



雛かざりに学ぶ郷土の風習！

2月15日（日）、宿場の雛まつり会場準備が進む大迫交流活性化センターにて文教厚生部主催の「雛かざり体験」が行われました。大迫宿場の雛まつり実行委員会の皆さんに教わりながら、ちいさな飾りをつけ人形や御道具を並べ飾りました。五人囃子は右側に行くほど持ち物が軽いのだそうです！皆さん、知っていましたか？



チェロの生演奏と朗読で観客魅了！

文教厚生部主催の文化芸術振興事業「チェロの生演奏と朗読会」が3月7日（土）大迫交流活性化センターにて開催されました。

川原町出身の畑中美耶子さんと、畑中さんが主催する児童劇団出身の高村明彦さん（劇団「現代時報」代表）のお二人に『セロ弾きのゴーシュ』を朗読していただきました。畑中さんは地元・盛岡のイントネーションで語り、朗読に合わせたチェロの音色でより一層会場は宮沢賢治の世界に引き込まれました。最後はチェリスト・三浦祥子さん（いわてフィルハーモニー所属）のチェロの生演奏で朗読会を締めくくりました。



(↑) 右から畑中美耶子さん、高村明彦さん、三浦祥子さん

宿場の雛まつりで成果を披露！

生涯学習事業の学級講座「こども茶道教室」を前号でご紹介しましたが、今回は「宿場の雛まつり」でその成果を披露した様子をお届けします！

宿場の雛まつりのメイン会場（大迫交流活性化センター）内に設けられた抹茶コーナーにて2月28日、3月1日の2日間、実際に接客を体験しました。講座とは違った緊張感の中笑顔で接待し、お客様にも喜んで頂けたようです。（^ー^）





の一言

今こそ逃さず転換期。

大迫地域の宝、山林資源について考えてみたいと思います。幼少の頃、煮炊きといえば炉場、その後は薪ストーブ、コタツには木炭を使用し、冬期間の仕事といえば炭焼きだった。昭和 20 年代、内川目農業協同組合で木炭の取り扱う量は県内でも優位だったと記憶している。現在、山林の活用はなくなってしまうと言っても過言ではない。国が輸入材に頼った政策の所為だろうか。

山林を手入れしても無駄ということに頭を切り替えてしまったのではないだろうか。この地域の山林は宝だと思っていたのは私だけだろうか。だれもが信じていたと思う。平成 6 年から森林税を一人当たり 1,000 円納税している。植樹祭等にも使われているようだが、一般の人にはその用途が分かり難い。花巻市には総合計画の中に森林整備計画が詳細に記されている。この計画を見る限り実質生かし切れてないように見受けられる。

紙上の記事が思い出される。その記事には、里山を見れば地域力が見えてくると記されていた。記事を読んで納得した。特に大迫地域は内川目、外川目、亀ヶ森、この地域が経済的に豊かにならなければ、全体的な人口減少と過疎化に待たなしの限界のまちへと益々拍車がかかるのではないだろうか。

噂では森林組合事業所縮小との声が聞こえて来る。まちの活性化に携わる者として危惧の念を抱かずにはいられない。市においては県や国の動向を注視しながら国の補助制度等の細部研究及び活用をし、そして大胆な政策を打ち出すことにより、この地域の“就労の場の確保”と“定住人口の増加”に繋げて欲しいというのが本音である。全国的な動向として田舎暮らしに憧れUターン希望者が増えていると聞く。組織としても全力で取り組む覚悟である。表現がきついようだが【地域の人口減少ストップ!!】の環境整備が急務であると思う。

大迫地区コミュニティ振興会 熊谷 貞夫



経済産業省は、2015年度から間伐材などを利用した出力2千ワット未満の木質バイオマス発電について、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度で新しい区分を設ける方針だ。買い取り価格は1割増しで40円と、14年度に比べ8円引き上げて導入を推進する。経産省はバイオマスを導入する地域が増えれば、山間部の活性化に

小規模バイオマス優遇

役立つと期待している。木質バイオマスは木材などを燃やした熱でタービンを回し発電する。地域の燃料で電気を生み出す、災害に強い「地産地消型」のエネルギーだ。ただ、小規模なバイオマスは採算を確保するのが難しく、普及を阻む要因となっていた。農林水産省によると、伐採しても利用さ

経産省 山間部の活性化期待

れない木材は年約2千万立方メートル。バイオマスが広がって有効活用が進めば、地域の雇用確保や森林の保全にも貢献しそうだ。一方、出力20割以上の風力の買い取り価格は1割増しで22円、1万5千ワット以上の地熱は26円とする。いずれも14年度の価格を据え置いた。

2015年2月25日

岩手日報朝刊7面掲載（共同通信配信）

◇大迫地区コミュニティ振興会に関わる主な行事◇

- 2月16日（月）平成26年度大迫総合支所現地災害対策本部災害対応訓練
- 2月17日（火）大迫交流活性化センター駐車場等除雪作業
- 2月21日（土）大迫文化講演会（文教厚生部会）
- 2月25日（水）コミュニティ会議等地域づくり研修会
- 2月26日（木）第11回会長副会長定例会議
- 3月7日（土）チェロの生演奏と朗読会（文教厚生部会）
- 3月11日（水）自主防災組織等リーダー研修会
- 3月13日（金）花巻市立大迫中学校卒業証書授与式

大迫地区コミュニティ振興会

まちづくりビジョン

～地域の大切なものを未来につなぐ～



☆Blog <http://blog.goo.ne.jp/oohasama-community>

☆Twitter <http://twitter.com/oohasamacom>

☆Mail oohasama.community@clear.ocn.ne.jp

